

屏



「あけび」二曲屏風 左隻 紙本着色 (水彩) 44.5×90.0cm (個人蔵)

特別展

深沢紅子 屏風絵展

二〇一八年七月五日(木)～十月二十九日(月)

深沢紅子は、上京して岡田三郎助のもとで油彩画を学び、一水会展、女流画家展などに作品を発表するがたわら、軽井沢をこよなく愛し、1964年から20年ほど堀辰雄1412番山荘を夏のアトリエとして、軽井沢高原に咲く多くの野の花を水彩で描きました。

今回は、深沢紅子の数少ない屏風絵を通して、野の花のように生きることを願った、深沢紅子の自然や人間に対するやさしさに満ちたところをご紹介します。

深沢紅子(ふかざわ こうこ)

- 1903年 岩手県盛岡市生まれ
- 1919年 盛岡高等女学校卒業。
- 13歳頃から池田龍甫に日本画を習っていたため東京女子美術学校(現在の女子美術大学)日本画科に入学。
- 1921年 油絵科に転科。岡田三郎助に師事。
- 1923年 同校卒業。同郷の画家深沢省三と結婚。
- 1925年 二科会展に初入選。
- 1937年 第1回一水会展に出品。
- 1947年 第1回女流画家展に出品。
- 1949年 一水会優賞受賞。
- 1952年 一水会委員となる。
- 1964年 この頃から約20年、軽井沢の堀辰雄1412番山荘(現在、軽井沢高原文庫に移築)で夏を過ごし、高原の野の花を多く描く。また、戦前・戦後を通じ堀辰雄、立原道造、津村信夫ら文学者と交流し、本の装幀なども数多く手がける。
- 1980年 深沢紅子展(岩手県民会館)
- 1985年 深沢紅子展(親しい人優しいひとたち(日本橋高島屋))
- 1992年 深沢紅子野の花展(軽井沢高原文庫)
- 1993年 深沢紅子展(練馬区立美術館)
- 3月25日、山中湖山荘にて死去 90歳
- 1996年 7月、軽井沢に深沢紅子野の花美術館開館。9月、盛岡に深沢紅子野の花美術館開館



「よそおう」油彩 163×132cm 1982年一水会展出品(深沢紅子野の花美術館・軽井沢蔵)



「あけび」二曲屏風 右隻 (個人蔵)

絵

イベント 野の花さんぽ 2018

四季折々に塩沢湖畔に咲く花や植物たちを花の専門家がご案内いたします。
 日時：7月21日(土)、8月18日(土)、9月8日(土) 各13時～15時頃
 料金：1500円(2回目以降は1000円) 小中学生500円 未就学児無料 ※軽井沢タリアセン入園料を含む
 定員：15名程度 《要予約》 予約受付は随時FAX、電話で受け付けます。
 講師：軽井沢サクラソウ会議・自然観察指導員 集合：深沢紅子野の花美術館

深沢紅子野の花美術館
 Kouko Fukazawa Nonohana Museum

2018年7月5日(木)～10月29日(月) 会期中無休
 入館料/大人700円 小中学生400円
 協力：深沢家

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉217 Tel. 0267-45-3662 Fax. 0267-45-6466 http://www.karuizawataliesin.com

国道18号		
小諸	中軽井沢駅	軽井沢駅
	軽井沢バイパス	高崎
深沢紅子野の花美術館	塩沢	南軽井沢
軽井沢タリアセン	●	碓氷軽井沢IC
<アクセス> JR北陸新幹線・しなの鉄道「軽井沢駅」下車、タクシー約10分、または、しなの鉄道「中軽井沢駅」下車、タクシー約7分。 上信越自動車道・碓氷軽井沢ICより車で約15分。 <急行塩沢湖線>7/14～通年「軽井沢駅北口バスターミナル④番」→「塩沢湖」下車(有料410円)、徒歩5分 <町内循環バス 東・南廻り線>通年「軽井沢駅北口バスターミナル①番」→「塩沢湖」下車(有料200円)、徒歩5分		